

熱中症情報

<搬送数>

令和2年5月1日～7月1日までの搬送数（消防局データを使用）は、計122人（5月24人、6月96人、7月2人）でした。6月に入り最高気温が25℃を超える日が多く、搬送数も増加しています。

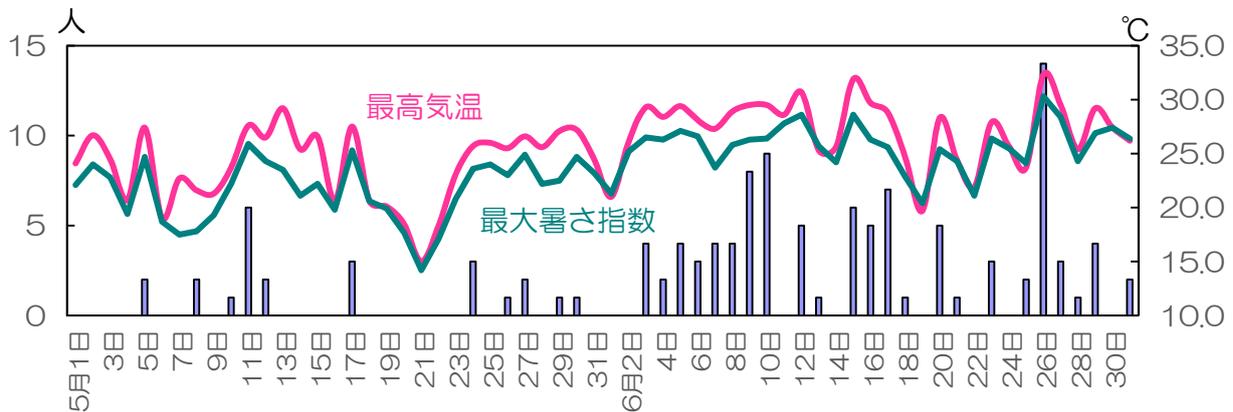
6月26日は、最高気温が32.3℃（今期の最高値）で、搬送数が14人でした。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。

気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。

今年は、新型コロナウイルスを想定した『新しい生活様式』を実践し、感染症予防とともに、これまでに以上に熱中症予防にも心掛けましょう。



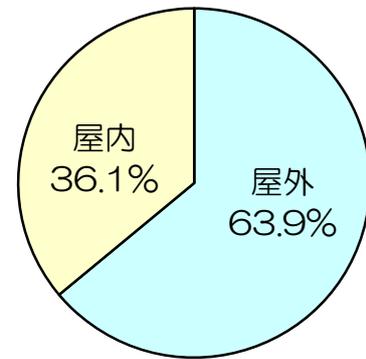
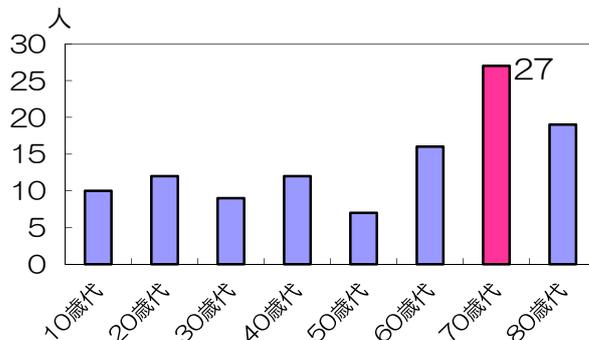
暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別>

年齢別では、70歳代が27人と、最も多く、22.1%でした。

<発生場所>

屋外63.9%、屋内36.1%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度>

軽症58.2%、中等症37.7%、重症3.3%、重篤0.8%でした。

高齢者（65歳以上）の重症の割合が高くなっており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

